

全国連盟第 34 回総会に参加して

安彦 秀夫（東葛山の会）

日時：2020年2月15日（土）12：00～16日（日）12：00（1泊2日）

場所：ホテルコンチネンタル府中（東京都府中市）

代議員：出席68名、委任状6名（2日目議案採択時資格審査発表）（定数80名）

全国：会長、副会長、監事、事務局、専門委員、理事長、副理事長、理事など

千葉県連参加者（7名・敬称略）：全国連盟理事（廣木國昭、山本尚徳、石川昌）、

代議員（菅井修、伊東春正、安彦秀夫）、傍聴者（廣木愛子）

新型コロナウイルス感染が連日マスコミで報道される中、一抹の不安を抱えながらマスク着用で参加しました。にもかかわらず、マスク姿はほんの僅かでした。

北海道から沖縄までの各都道府県連の代議員が集い、議案書に盛られた多くのテーマに対して活発な質問や意見・提案、そして各地方連盟からの活動報告などが2日間に亘りありました。

議案書に対する主な質問や意見・報告は、次の通りです（順不動）。

- ① ROUSANポータルズ制度閉鎖総括（検証委員会報告）→指摘事項を真摯に受止める
- ② ハイキング交流集会（関東地区開催）の具体的内容→これから検討に入る
- ③ 東日本支援活動に対する補助金支給を復活してほしい→考えていない
- ④ 登山時報のデジタル化→紙媒体と電子媒体の2本立てに向けて継続検討する
- ⑤ 『ハイキングA・B・C』や『ハイキング セクトステップ』の改定予定→当面考えていない
- ⑥ 安全登山→事故事例集作成取り組みの地方連盟単位での実施紹介（愛知・大阪）
- ⑦ 会員減少の歯止め→労山の魅力を盛り込んだパンフレットの作成を早急に行う
- ⑧ 台風被害状況と登山道整備等→千葉・神奈川などより報告あり
- ⑨ ココヘリの普及→道迷い時に短時間で救出された例などの紹介
- ⑩ 脱会した会の中の継続希望会員への対応→地方連盟で対応できないか検討必要
- ⑪ 労山基金の中で遭難に特化した基金創設→掛け金と補償内容等を検討する
- ⑫ 『登山時報』に『事故事例』のコーナーを設け、連載してほしい→検討する
- ⑬ 2020年労山カレンダーは不評である（小さく、月～日は見にくい）
- ⑭ 会員数と労山基金加入数の異なる会が多い→ずれは調査日が異なるため
- ⑮ 『福島の子供たちとの夏休み』への補助金→現時点では考えていない
- ⑯ 気候変動に特化した集会の開催→自然保護集会などを検討する
- ⑰ 各会の労山基金担当者説明会の開催→今後も継続して実施する
- ⑱ 社会から評価される会活動を目指す総会用資料作成中（岩手県連）
- ⑲ 山行計画書をメーリングリストで共有活用している（岐阜県連など）
- ⑳ 安全登山マニュアル28ページを作成し会員全員に配布（埼玉県連）など

2日目に、各地方連盟からの報告の後、浦添理事長から討議の纏めの報告があり、提案された次の議案3件は、全て原案通り承認されました。

- ① 第1号議案：第33期下期(2019年)活動総括と第34期上期(2020年)活動方針
⇒ <挙手採択：保留0、反対0、賛成64>で承認
- ② 第3号議案：『日本勤労者山岳連盟規約』及び『各部局および専門委員会に関する規定』などの改定（現在の活動実態に合わせて、文言の追加・削除）
⇒ <挙手採択：保留2、反対0、賛成62>で承認
- ③ 第2号議案：第33期下期（2019年）決算と第34期上期（2020年）予算
⇒ <満場の拍手>で承認

続いて、初日18:00までに立候補者が無く、『役員選考委員会』から推薦された第34期の『全国役員及び理事』の信任投票が実施され、推薦者全員が信任され、退任者及び新役員の代表者からそれぞれ挨拶がありました。

*千葉県連関連では、次の2名が理事として信任されました（敬称略）。

理事：山本尚徳（かがりび山の会）再任、石川晶（船橋勤労者山の会）再任
長く副理事長を担ってきました廣木國昭県連会長（ちば山の会）は退任されました。また、『荣誉功労章・永年会員章』、及び、新特別基金制度の『報奨金』の表彰・授与が行われました。千葉県連関連では、次の通りです。

*『荣誉功労章』の表彰・授与された人は、次の3名（敬称略）です。

菅井修（ちば山の会）、鶴田秀雄（ちば山の会）、小林康男（まつど山翠会）

*『永年会員章』は、28名に授与されました。

君津1、かがりび1、あびこ5、ちば4、こまくさ5、東葛2、ふわく6、松戸4

*『報奨金』の表彰・授与された会は、次の3会です。

君津ケルン山の会、まつど山翠会、千葉民医連山を歩こう会

総会終了後、『関東ブロック打合せ』が行われ、『2020年行事任務分担』などに付いて話し合われました。今年は、『自然保護交流集会』が千葉県連の担当です。

私は、会員の高齢化で退会する人が増えたり、若い人が入会してこないという現状もあり、会員拡大に向けた奇策（妙案）を模索中です。

これらを早急に打開する具体的な指針や安全登山教育・普及の指針について、次のような質問をしました。

- ① 『安全登山標準・計画書編とパーティ論・リーダー論』が『安全登山をめざす標準づくり委員会』から答申されているが、いつ公開されるのか？
- ② 組織強化拡大をめざす取り組みとして、次世代会員を迎え入れられる組織体制の維持や全国連盟青年アンケート結果を踏まえた具体的な指針を示してほしい。
- ③ 会運営、連盟費の使途、安全登山のための全国連盟からの地方連盟への支援、労山基金の魅力などを盛り込んだパンフレットの配布を早急にしてほしい。

会員減少の歯止めと拡大に向けて、今後どのように展開していったら良いかを模索中なので、そのヒントを得たかったのですが、どれも『これから具体的な検討に入る…』という回答で、気長に待つしかないかな…と思った次第でした。

更に、昨年の房総半島の台風被害状況及び復興に向けた取り組みを報告しました。

【感想】

第33期下期（2019年度）に脱退・解散届のあった会は、『22会（248名）』で、その脱退の原因・理由の多くが、『会員の高齢化が進み会の存続や活動が困難・不能になった』でした。

多くの会で、会員の高齢化が進んでいるようです。私の所属している会も例外ではなく、昨年末実施された千葉県連組織委員会のアンケートの当会の『会員年齢構成』では、『50歳未満：0』、『50～59歳：1名』、『60～69歳：13名』、『70～79歳：32名』、『80歳以上：7名』で、『平均年齢』は、『72.2歳』でした。

高齢化が進んでいることで、会山行として取り組める山は、以前と比べて限られてきています。また、体力/注意力などが落ちてきて、これまで以上に安全登山に留意する必要が出てきています。

『楽しく安全な登山を会として継続していく』ためにも、会員拡大、特に若者の加入に向けて努力すると共に、常日頃から安全登山の教育を実践していかなければ…と改めて思い知らされた2日間でした。

このような現状から1日でも早く抜け出すための資料として、全国連盟からの『安全登山標準・計画書編とパーティ論・リーダー論』や『労山の魅力などを盛り込んだパンフレット』などが、早急に発行・配布されることを期待しています。

(2020/2/25/Tue.)

